

筑前國續風土記卷之二目錄

提要下

國境小名	河水記	海邊石壘說	廢寺	廣村	高山	鄉名
	瀑	筑紫探題	十三塚	大塘	深谷	河內名
	布	鹽燒地	石窟說	海島	松原	廣野
	飯盛山四所					

筑前國續風土記 卷之二

貝原篤信選定

貝原好古編錄

竹田定直校正

提要下

○郷名

いにしへに、國をわかつて郡とし、郡を分ちて郷とし、郷をわかつて村とす。國によりて郷の名猶分明に残れるもあり。此國も順和名抄に載る所の郷の名百二所あり。されどもいつの時よりか郷の名明ならず。今わづかに傳へ稱する所左にしるす。

樋井郷八村（早良郡） 檜原村 檜原村 檜原村

東油山村 堤村 片江村 長尾村

田島村 鳥飼村

脇山郷（早良郡） 椎原村 板屋村 小笠木村

西 村 石竈村 曲淵村 内野村
平群郷 又倍久利、戸栗（早良郡）飯盛村邊數村を
云。

中屋郷 なかつや（夜須郡）砥上村の邊を云。

山口郷（鞍手郡）山口村 沼口村 竹原村

宮永村 小伏村 乙丸村

把伎郷 はき（上座郡）東は穗坂村より、西は志波村の内
へい谷迄。南は大川限。北は寶珠山村の内、景
が嶺までを云。

乗手郷 のつて（上座郡）林田村 穗坂村 大山村
池田村 星丸村 益末村

○河内の名

凡河内とは、民俗の稱する所、山間一谷の中に村ありて、河水流れ出る所の境内を云。平原廣野の所をば稱せず。

岩戸河内 十二村 那珂郡

仲 村 五郎丸村 松木村 今光村 みつ

道善^{だうぜん}村 後野^{うしろ}村 東隈村 西隈村
安德村 中原村 梶原村 片繩村

四箇畑河内 那珂郡

不入道村 埋鐘村 鳴瀧村 一瀬^{いちのせ}村

五箇山河内 那珂郡四箇畑の上なり

網取^{みり}村 道枝折^{みちしをり}村 桑河内^{くはのがうち}村 大野村
小河内^を村

宇美河内 又號田中庄。凡九村 糟屋郡

炭燒村 隙子岳村 宇美村 井野村

田留村 吉原村 志免村 南里村

別府^{べふ}村

須惠^{すゑ}河内 八村 糟屋郡

左谷^さ村 上須惠村 下須惠村 植木村

旅石^{たし}村 本合^{もつたい}村 酒殿村 中原村

迫戸^{せと}河内 十村 糟屋郡

北^へ 金堰^{かなゐで}手村 津波^{つは}黒^{くろ}村 高田村 和田村

大隈村

南は、篠栗村 若杉村 乙犬村 小中村

田中村 田中村南北の間にあり

山田河内 糟屋郡

伊野村 上山田村 下山田村 名子

庄内河内十三村 嘉摩郡

佐與村 元吉村 大門村 有井村

仁保村 多田村 有安村 綱分村

山倉村 入水村 高倉村 赤坂村

筒野村

千手河内 嘉摩郡

長野村 川底村 千手村 大力村

方田村

桑野河内 嘉摩郡

山田河内 同郡

平村 下山田村 上山田村 熊ヶ畑

王谷河内 又相屋 穂波郡

河袋村 津島村 柳橋村 中村

目尾村 しやかのを

江川河内 七村 夜須郡

下戸河内 尾 萩井 口 大河内

高野河内 鱒 歸 栗河内

右七處の間長壹里半あり。彌長より小石原の奥まで、谷中の長凡六里。

三箇山河内

櫛木村 くしき 桑野曲村 いづみやま 五玉山村

秋月領。此三村一谷の中にありて、五玉山を本村とし、櫛木、桑野曲を枝村と稱す。

四箇畑河内 御笠郡

大石村 本道寺村 香園村 油須原村 此村

谷頭にあり。谷中下より上に、村の立る次第如此なり。

若宮河内 十九村 鞍手郡

本州の内尤大なる河内也。庄内、迫戸、岩戸是につげり。

倉久村 四郎丸村 上有木村 下有木村

芹田村 原田村 金丸村 水原村

竹原村 高野村 平 村 黒丸村

金生^{かなふ}村 福丸村 伊賀利村 永井鶴村枝村也

岩野村 同 上所田村 宮田村の枝村也

惠比村 稻光村の枝村なり 古門村 同 上

吉川河内 六村 鞍手郡

乙野村 脇田村 湯原村 縁^{へり}山村
下^{しも}村 小伏村

吉川河内は若宮河内と相ならべり。其間に金原^{こがね}をへだてたり。川水は各別に流る。

永犬丸^{えいの}河内 遠賀郡

上上津役村^{かみかうぢやく} 下上津役村 永犬丸村

則^{すなは}松村 折尾村

この河内の水源は、上津役の上より出で、右の數村を過ぎ、長崎に落ちて海に入る。長崎に上下あり。長崎は、折尾、則松兩村の枝村なり。

庄内河内 怡土郡 公領なり。

迫方河内 同郡 同上

○廣野

安野

夜須郡 東小田村

山隈原

同郡にあり

曾根原

怡土郡 井原村

春日原

那珂郡 春日村

團原

糟屋郡 席内村

中原

遠賀郡 中原村

有毛野

遠賀郡 島郷有毛村

長者原

糟屋郡 中原村

下白水原

那珂郡 白水村

小田野原

下座郡 小田村

○高山

那珂郡

一嶽

一瀬村

龜尾山

同上

虎嶽

九千部山 大山なり

御笠郡

竈門山

佛頂山

竈門山の北にならべり。かまど山より高し。

夜須郡

砥上山

砥上村

古所山

野島村

早良郡

背振山

板屋村。此山山上神社より南の方は、今肥前國に屬す。然れども、北一面は猶筑前に屬す。

坂森山

鬼鼻

脇山村

荒平山

小笠木村

油山

油山村

飯盛山

飯盛村

怡土郡

層々岐岳そぎ雷村

井原山

井原山村

高礪山たかそ

高祖村

深江嶽

深江村
公領

浮嶽うき

吉井村
公領

叶嶽かなふがだけ

上原村

志摩郡

天ヶ獄

櫻井村、雌雄めお二峯あり。

加也山かやの

非ニ高山ニ。然本郡内所ニ特立。四方之所ニ瞻望ニ也。

糟屋郡

頭巾山

龜門山より北の方、第四峯にあたる。

槻河内つきが

頭巾山の北

砥石山

槻河内の北

鬼ヶ城おに

砥石山の北、龜門山より高し。

若杉山

若杉村

白山

久原村

立花山

立花口村

鉾立山

萩尾村

薦野山

薦野村

宗像郡

宗像山

赤間山
なり

孔大寺山く

勝浦獄かつらだけ

勝浦村

宮地嶽

宮地村

遠賀郡

皿倉山

前田村

帆柱山

黒崎の南

松山

一瀬村

石峯

藤木村島郷の内にては高山なり。

一瀬いちのせ

一瀬村の上

鞍手郡

舞 嶽 金剛村 尺しゃく 嶽 頓野村 鷹取山 頓野村

福智嶽 頓野村、鷹取山の東にあり。鷹取山より高し。 鷹 清水山 黒丸村

鎗 場 縁山村 熊 峯 脇田村

嘉 摩 郡

馬見山 馬見村にあり。古所山の東南にならべり。古所山より高し。

宇土浦山 屏村にあり。馬見山の東南につゞけり。

穂 波 郡

龍王嶽 八木山村 根手嶽ねて 内野村

上 座 郡

島屋山とや 佐田村 寶珠山

○ 深 谷 十一所

夜須郡彌長より上座郡小石原まで六里。鞍手郡千石

原より穂波郡八木山まで。那珂郡四箇畑五箇山兩所同谷

なり。上下を以て名かはれり。上座郡福井寶珠山鼓村寶珠山と鼓とは別谷なり。下に同流となり

福井村を過て豊後に至る。同郡佛谷さだ佐田。怡土郡井原山。夜須郡三

箇山。早良、怡土郡、内野村より怡土郡水無の奥ま

で、其間内野、石籠、曲淵は早良なり。飯場、水無は怡土なり。 嘉摩郡長野、川底、千

手、大力。同郡桑野。御笠郡平等寺。糟屋郡伊野山田。

○松原 八所

箱崎松原糟屋郡 地藏松原同 上 百道松原早良郡

生松原早良郡 岡松原遠賀郡 志賀松原那珂郡

花見松原糟屋郡 那多松原糟屋郡

○廣村

下座郡 美奈宜村 參千五百石餘 是國中第一の大村なり

那珂郡 堅糟村 參千參百石餘

志摩郡 櫻井村 參千四百石餘

糟屋郡 中原村 參千百石餘

箱崎村 貳千六百石に近し

席内村 貳千四百石餘

青柳村 貳千四百石餘

怡土郡 井原村 貳千九百石餘

御笠郡 宰府村 貳千九百石餘

鞍手郡 植木村 貳千九百石餘

頓野村 貳千八百石餘

感田^{かんた}村 貳千八百石餘

下新入^{しんにふ}村 貳千參百石に近し

嘉摩郡 西^{にし}郷^{のがう}村 貳千七百石餘 秋月領

穗波郡 土^は師^じ村 貳千五百石餘

早良郡 姪濱村 貳千貳百石に近し

原村 貳千參百石餘

宗像郡 野坂村 貳千四百石餘

竹丸村 貳千百石餘

上西^{さいがう}郷村 貳千百石餘

下西郷村 貳千石餘

席田郡 下臼井村 貳千參百石餘

遠賀郡 楠^{くす}橋村 貳千參百石餘

鬼津村 貳千貳百石に近し

上座郡 大庭^は村 貳千石餘

夜須郡 朝日村 貳千貳百石に近し

甘木村 貳千百石餘

馬田村 貳千四百石餘 秋月領

○大塘 八所

白水村 那珂郡 勝浦村 宗像郡 植木村 鞍手郡

井原村 怡土郡 千鳥 裏糟屋郡 鹿府 裏糟屋郡 鹿府村

駕輿丁 表糟屋郡 松延村 夜須郡

○海島 大島二十三合三十六 小島二十三合三十六

志賀島 那珂郡 福岡より三里西北にあり。田島高

四百九十三石一斗六升。島のめぐり二里七町十三

間、東西十八町三十間、南北二十七町。高一町十

二間。西北に勝馬と云枝村あり、田畑高三百二十

五石三斗三合。勝馬に神社あり。寺院あり。又西

に勝浦あり。潜婦及漁人有。凡此島の民家三百十

二戸、農商海人相まじはれり。

殘島 早良郡 福岡より二里。田島高四百十七石六

斗九升五合。民家七十九戸。神社寺院あり。島の

周二里二町十三間、東西十五町、南北三十町。高

一町二十四間。

玄界島 志摩郡 福岡より六里。唐泊より一里。畠
高二十二石二斗九升七合。民家あり。島のめぐり
三十三町六間、東西十町、南北十町三十間。高一
町五十四間。

姫島 志摩郡 福岡より十里。岐志の野邊崎より二
里。高三十七石一斗一升八合。民家あり。神社あ
り。島の周二十六町五十八間、東西八町三十間、
南北十二町十二間。高一町三十六間。

於呂島^{おろの} 志摩郡 西浦より亥の方十三里。民家あり。
人口百人に足らず。周二十六町七間。東西五町十
八間、南北十一町。高五十七間。

阿部島^{あいの}（今俗、藍島とかく）糟屋郡 田畠高百四十
六石九斗七升六合。民家三十八戸。周一里十四町
二十六間、東西十六町三十間、南北十町三十間、
高三十三間。

大島 宗像郡 神湊^{かうの}より三里北にあり。田畠高六百
七十二石八斗九升七合。民戸二百餘、周三里三十

七間半、東西三十町、南北三十町廿一間。高二町十八間。町の長六町。後町もあり。商家海人相まじれり。

奥島 宗像郡 島の周一里。民家なく田畠なし。國君より島守をつかはされ、交替の番をつとむ。大島より乾の方四十八里といふ。然ども實は二十里許あり。此島の前廿町許、島の巽の方に小屋島とて小島あり。めぐり百間許。高水面より七丈ばかり。皆岩なり。又荒船御社ある。所も別の小島なり。奥島の前にあり。

地島 同郡 民家多し。田畠高百八十一石餘。周一里十八町四十一間。東西八町十八間、南北十五町。高一町廿四間。白濱といふ所あり。此所にも民家多し。

勝島 同郡 民家二三戸あり。周十六町四十九間、東西四町、南北七町。高五十間。

遠賀島郷 東西五里、南北一里。村數廿七。田畠高

七千石餘。遠賀との間入海通せり。其間東のひろき所は大渡川といふ。西の方せばき所を洞くきの海といふ。

白島、雄島 薄賀郡 雄島雌島二をすべて白島といふ。二島脇田脇浦のおきにあり。雄島は東にあり。周廿一町十九間、東西三町二十四間。南北九町十八間。高四十八間。

白島、雌島 同郡 雄島と相去る十八町西にあり。周廿一町、東西六町廿四間、南北三町六間。高廿八間。

以上大島とす。

○小島之類

柱島 志摩郡 玄界の乾五町許にあり。周三町許。高五十間許。皆石の柱を立たるなり。土なし。

釋迦牟尼島 同郡 俗に大机といふ。島の大さ方百間許。唐泊よりいぬゐの方廿七八町許。玄界より未申の方七八町。洞ほらありて北より西へ舟通る。

小机島 同郡 大机より南四五十間にあり。東西廿四五間、南北十餘間。ひきし。洞あり、小舟通ず。鳥帽子島 同郡 芥屋村より七里澳にあり。鳥帽子の形に似たり。周五六町。大島なれども岩多し。島なし。

寶島 同郡 濱崎の東にあり。石多し。

綿島 同郡 野北にあり。岩なり。

昆布島 同所にあり。岩なり。長六町許。

宇久島 早良郡 荒戸山に近し。

虎島 那珂郡 志賀の南にあり。

妙見島 表糟屋郡 名島古城の北にあり。潮干たる時は、かちにて行く。

堂山 遠賀郡 島郷の内、柏原村の西にあり。

洞山 同郡 同所の西にあり。洞ありて南北に通せり。其廣さ長さなどは、遠賀郡の部にしるせしゆへこゝに略す。凡南北に通せる洞は、國中及他國にもまれなり。堂山、洞山ともに柏原村に屬す。

中島 遠賀郡 若松と鳥旗とばたの間にあり。是筑前風土記にいへる河舛島かはづなるべし。長政公入國の後爰に城を築て、家臣三宅若狹を置て、東方のふせぎとしたり。たまふ。然るに元和元年公命によりてこぼしてり。

葛嶋かつら 同郡 中島の數町西にあり。中嶋より大なり。

是風土記にしるせし資波島しはなるべし。

同郡枝光村、北の海中小島四 葛島の四南にあり

松島 牧山に近し 俵子島 石島なり

中島 右小島三つ相ならべり 端の島

二子島 同郡 黒崎のむかひ、二嶋村の南に小島二あり。周各九十間許。矢筈竹多く、蛇多し。岸けはしくして上り難し。

鼓島 宗像郡 渡村の北にあり。小なる岩山なり。其形大鼓の如し。

小屋島 同郡 前の奥の島の下に詳に記せり。

荒島 同郡 同上。

葉嶋 怡土郡 唐津領、石井村の北にあり。

○廢 寺

古ありて今なき寺なり。或むかし盛にして今おとろへたるをもしるせり。此外にも廢寺多けれど、小にしてあらはれざるは、こゝにしるさず。

四王院 御笠郡原山附。凡三百八十坊ありしと云。
城山 同郡山口村。千坊ありしと云。

觀世音寺 同郡。今僅に存せり。

國分寺 同郡國分村。

國分尼寺 同村。

有智山寺 同郡竈門山の僧徒、其山下内山、南谷、

北谷三所に住す。凡三百七十坊。

知光寺 同郡小野北谷にあり。

平等寺 同郡平等寺村。

十王堂 同郡塔の原。

背振山東門寺 早良郡。天台宗。三百六十坊。

西油山天福寺 同郡西油山。禪宗。僧舎三百六十坊

ありしと云。

東油山泉福寺 同郡東油山。禪宗。僧舍三百六十坊
ありしと云。

太平寺 同郡檜原村

雷山千如寺 怡土郡。此寺いにしへは千坊ありしと
いふ。甚繁榮せり。今纔三坊存せり。是より以下
怡土郡七箇寺あり。皆眞言宗なり。

小藏山小藏寺 同郡小藏村。公領。

一貴山夷巍寺 同郡、公領。昔二十坊あり。

染井山靈鷲寺 同郡高麗村の境内也。今纔に存せり。
むかしは四十二坊ありと云。

鉢伏山金剛寺 同郡上原、眞言宗、寺跡甚廣し。

久安寺 同郡吉井村、公領。

楠田寺 くすでんじ 同郡東村、公領。

以上怡土郡七ヶ寺と稱す。

高麗寺 同郡高麗寺村。

香椎報恩寺 糟屋郡。禪宗。

顯孝寺 同郡多々良。禪宗。むかしは大寺なり。子院

も十坊あり。

白山頭光寺 同郡久原。本谷西谷別所。凡僧舍三百五十坊ありしと云。

若杉山下、左谷建正寺、右谷石水寺 同郡若杉村。むかし左右三百坊あり。天台宗。

獨鈷寺 同郡立花口。むかし三百六十坊あり。

安國寺 嘉摩郡下山田村。今は觀音堂一字あり。

明星寺 穗波郡明星寺村。むかし十二坊あり。今佛堂三字わづか存せり。

○十三塚在所

怡土郡井原村。夜須郡朝日村。御笠郡大石村。穗波郡土師村。下座郡堤村。桑原村。永村。遠賀郡熊手村、小竹村、小石村、猪隈村

右凡十一所朝日村初二所あり。二村町を立し時、一所破却せり。

凡十三塚は、此國のみにも非ず、他國にも有之。大和國立田越の山上にも十三塚あり。故に俗に立田越

といはずして、十三越といふ。或人曰、十三塚をつく事、近古の風俗に、佛を信じて冥福を願ふ者、父母の死したる後、三日よりはじまりて、十三年忌までに法事を行ふ度毎に、塚を一つ築く。三日、一七日、二七日、三七日、四七日、五七日、六七日、七七日、百箇日、一周忌、三年忌、七年忌、十三年忌、凡十三度に十三塚をつけり。十三佛になぞらふと云。其塚の内には、佛經の文など僧にかゝせて埋みしなり。此説さもあるべし。他説は用ゆべからず。

○石窟之説

本州諸郡に石窟甚多し。擧てかぞへ難し。民俗には鬼塚といふ。左右及向の正面皆大石をたゝみ、上は大石をならべわたせり。横一間餘、奥へ入事三四間、五六間、七八間、其内二三區をなせり。高七尺餘、口は皆南にむかへり。當國のみにあらず、諸國にも多し。大和の萱生^{かやふ}、河内の服部川^{はつとり}には、千塚とて石穴甚多し。いづくにあるも皆口は南に向へり。後代其石

を取用ひて、くづれし所も多し。人里遠き所は其まゝあり。是上古いまだ人の家居なくして、穴に住し時の窟いはやなるべし。俗に、むかし火の雨のふりし時築しといふ。或は人を葬し所なりといへり。皆非なり。か
らもやまとも、上古は野にすみ、穴にをれり。其後人の心たくみになりて、家を作り出せり。周易にも、上古居而野處。後世聖人易之以宮室。と見えたり。
又富士の人穴、吉野の奥の笙の窟、菊の窟、相州繪島の龍穴、本州芥屋大門、豊前田河郡夏吉の窟などは皆天工なり。人力のなせる所にはあらず。

○海邊石壘之説

此國の内、箱崎より今津まで、上代異賊襲來の防のため、石垣をつけり。むかし此國を筑紫と名附し説あまたあれど、用ひ難し。只海邊に石をつきし故、筑石といへるなるべし。龜山後宇多の御時、蒙古の賊兵來り侵せしを防がんため、初て築しにはあらず。其時は古來ありし石垣を修理せしなり。むかしより

石垣ありし其證有ていちじるし。近代まで箱崎、博多、福岡、鳥飼、百道原ももぢ、姪濱、生の松原、今宿、今津などの海邊に、異賊ふせぎのために築し高き石垣残れり。今も鳥飼、姪濱、生の松原、今津の海濱の高き所をほれば、下に石垣ありといふ。海邊に石垣をたかく築し故、今も高き土堤どて所々にあり。かくの如く海邊の高き土堤、他州にはまれなり。

○筑紫探題

伏見院永仁元年三月、鎌倉執權北條貞時、初て北條兼時を、六波羅より筑紫に下し、鎮西の探題とし、九州二島の政事を司しめ、西國の藩鎮はんちんとして、異賊襲來しゅうらいの防禦はうぎよに備ふ。兼時、早良郡姪濱の東鷺尾山の巽たつみの山上に城を築て住せり。後伏見院正安二年、北條實政探題と成て下る。鎌倉北條家天下の權を取し時は、相つゞきて此國に九州の探題を下しける。其代々の城地、則鷺尾山の巽なる山なりと云。其後は又他所にも居住せしと見えたり。早良郡探題城跡の所に

しるせり。後醍醐帝の御時、北條高時より北條英時ひでを探題として爰に下す。英時滅亡の事は、太平記及九州記に見え侍れば、こゝにしるさず。九州記にしるせしは尤も詳なり。其後足利直冬を叔父直義取立て、九州の探題とす。後光嚴院延文三年春、尊氏の方より、一色左京太夫直氏、舍弟修理大夫範光を、筑紫の探題として下されけるが、菊池肥後守武光に打負て、京都へ上る。貞治元年九月、足利高經が二男左京大夫氏經、此職にて下りしが、菊池武光又是を打敗る。氏經其職にたへずして、恥辱にあひたりとやおもひけん、髪をそりて歸洛す。其後菊池武政以下、南朝の兵起るをしづめよとて、足利義滿より今川伊豫入道了俊を、應安五年筑紫の探題としてくださる。此人才識ありて、武事をも練達し、歌學をこのみ、其ころすぐれたる良臣なり。探題として在國二十五年なりしとかや。此時朝鮮の鄭夢周ていむしゅう來りて、了俊に太宰府にて謁見しける由聞ゆ。然らば了俊は

宰府に住せられしにや。鄭夢周が了俊に謁見せしを、
朝鮮の書には、倭王に見えしよし記せり。了俊を日
本王とおもひしにや。了俊其兄の子泰範が讒にあひ、
無實の罪をかうぶりて、應永三年九月歸洛す。初よ
り父の讓をうけて遠江國を領せしが、是をも沒收せ
られて閑居す。了俊職をやめられて上洛の後、管領
斯波義將が一族、從五位下澁川右兵衛佐源滿賴、九
州探題となる。剃髮して道鎮と號す。後花園院文
安三年三月十三日卒す。是を此國の人澁川探題とい
ふ。其子は義堯京都にあり。海東諸國記曰、文正元年
丙戌、京城澁川源朝臣義堯、遣使來朝。其使言義堯之
父、曾爲右武衛西海道九州總管。然不能言其詳。
蓋是道鎮之後歟。又千葉探題あり。那珂郡屋形原に
居宅の趾あり。又同郡一瀬村にも、千葉探題の城址
あり。一の嶽といふ。其墓もあり。名はしれず。其後大内義弘探題となり、
九州の事を司どる。太宰小貳喜賴とも添へらる。大
内持世、大内政弘、其子義興に至るまで、相續で探

題職となる。義興武家管領と成りて、其子義隆探題となる。大内氏に此職を預りては、皆防州に居ながら、此職を移めしならん。大府宣の文章は、太宰府より出せる文の如し。其文早良郡神松寺の處にしるせしがごとし。義隆自殺の後は、豊後の大友義鑑九州探題となり、義鑑天文十九年に卒してより後は、此職絶てなし。

○鹽燒地 八所

姪濱 早良郡 今宿 志摩郡 芥屋 同上

松崎 糟屋郡 新和白 同上 勝浦 宗像郡

新津屋崎 同上 新渡村 同上

○河水記

凡國中にて、千年川遠賀川を大川とす。千歳川は上座、下座の西南の側を流れて、筑前筑後の兩間にあり。故に川を以て境とし、兩國に屬す。上座、下座の漁人、昔より此川にて漁す。願鵜船を下して、うをつかひ、所々に網所を打て魚をとる。あるひは土

民堰手をせき、川水を引て田地にそゞぐ。此川兩國に屬せし證なり。此川南は皆筑後なり。北は筑前肥前なり。筑後の方ながく川を帶たる故に、俗あやまりて筑後川といふ。是本名にあらず。千年川と稱すべし。遠賀川は鞍手郡木屋瀬より來り、數村を経て芦屋に至り海に入る。故に此川上にては木屋瀬川といひ、下にては芦屋川といふ。其支流東に流れて若松に出、大渡川と云ふ。千年川遠賀川、國中第一の大河也。是に次では、那珂川、早良川、糟屋川、次に下座郡の美奈宜川、夜須郡の秋月川、頗廣し。然れども大川にはあらず。其源遠からざればなり。

一、凡此國の内、嘉摩、穗波、遠賀、宗像、糟屋、那珂、席田、早良、怡土、此九郡は、大やう東南西三方に山あり。北に海ありて南高く、北ひきく、其地勢北に向へる故に、其河水皆北海に入る。御笠は二日市より北半郡は、其河北にながれ、博多にて海に入る。二日市より南の方は、其水南に流れて、千

歳川に入る。上座、下座、夜須三郡は、東に山有て、西にむかひたる郡なれば、其川皆西に流れて千年川に入り、筑後柳川の北にて海におつ。又國中にて南海に落る水は、遠賀郡島郷の山より、南の諸村、大島、志賀島、残島、其外島々の南邊は、皆南海に流れ入る。然れども皆小流なり。志摩郡櫻井川、前原川は西海に入る。

一、國中船を浮ぶる川は、千年川、遠賀川なり。遠賀川の上飯塚秋松まで舟上る。又鞍手の境村の上は豊前田川郡まで船上る。植木川の上は宮田まで舟上る。川下に舟入川は、多々良川、那珂川、宗像の江口川、遠賀の長崎川、島津川、猪隈川なり。

一、國中の川の末北海に入る所、其流多くは東へ曲りて海に入る。其故は西北の風つよくして、砂を打上て川口をふさぎうづむ故に、其水直に海に入事あたはず。川口にて東へ曲り流るゝなり。遠賀川は大河にて水流さかなればしからず。

一、國中鱈を産する川、上座、下座の千年川、下座郡美奈宜川、夜須郡秋月川、那珂川、糟屋川、荏内川、鞍手郡若宮川、吉川川、大賀畑川、嘉摩郡大隈川、漆生川、御笠郡平等寺川、蘆城川、早良川、怡土郡高祖川、井原川、雷川なり。此外の小流には、鱈の産する事すくなし。又深山の内には、高瀧ありて鱈上らず。是を鱈返りと云。

遠賀郡

遠賀川 木屋瀬川の末なり、伊佐々村の邊にて廣さ一町、深さ五尺。猪隈村の邊にて廣さ五十間、深さ五尺。芦屋に至り海に入る。又三またより東へも流れ、洞の海を過、黒崎を通り、若松へ出づ。是大渡川なり。芦屋より潮入て、土生村まで二里半潮上る。此郡の地ひき、事はを以知べし。

島津川 鞍手郡新延川、中山村二筋の川、及木屋瀬川、小牧村より西に派分れ、末は島津村に出、芦屋に至り海に入る。島津村邊にて廣さ廿間、深さ三尺五寸。かち渡りす。

猪隈川 島津川遠賀川の間に、廣渡村の邊にて、派分れて川あり。川の廣さ十間、深さ二尺。末は芦屋に出、海に入。

大渡川 若松の川口より黒崎海士住^{りますみ}までをいふ。遠賀川芦屋の末、三頭といふ所よりわかれて、東に流る、故、瀬あれども大渡川といふ。詳なる事は本書遠賀郡下巻にしるせり。是古歌によめる名所なり。

矢矧^{はぎ}川 城^{じやう}が畑村より流れ出、黒山村に至り海に入。吉木川 高倉村より流れ出、吉木村を過、原村の末にて海に入。

長崎川 其源は上津役村^{かうぢやく}より流れ出づ。下上津役、永^{えい}犬丸^{のまる}、則松を経て、長崎にて海に入る。川下は船入る。大藏川 田代村より流出、大藏村にいたり、末は豊前國に入。

鞍手郡

直方川 穂波郡飯塚川、嘉摩郡漆生川^{うるしを}、桑野川、仁^に保川^{ほう}、一に落合、直方にいたる。末は芦屋川におつ。赤

地村にて川の廣さ十七間、深さ五尺六尺の間。舟渡也。

宮田川 若宮川吉川は、福丸村にて一になる。大賀畑川は、宮田の上にて一になる。宮田川は右の三川の合流なり。下は植木に流れ、小屋瀬川に入る。むかしは宮田まで川舟上り、若宮吉川の米をつみ下す。近年は堰手出來て、船上らず。

大賀畑川 其源は穂波郡八木山より出、大賀畑の山中を過、千石原に出、宮田の上にて若宮川、吉川川の下流と一に成る。大賀畑の間處々に淵多く、鱗多し。下境川 豊前國田川郡より出、直方の上にて嘉摩川と一になり、芦屋におつる。下境にて川の廣さ十八間、深さ三尺。

植木川 宮田川と上有木村より出る川と、上大隈村にて一になり、植木村にて木屋瀬川に落入る。川の深さ二尺五寸、廣さ七間。

木屋瀬川 直方川、植木川の末、木屋瀬川にて廣さ

五十間、深さ四五尺の間。舟渡し也。

穂波郡

内野川 夜須郡三箇山より流出づ。又冷水嶺ひやみづたうげよりも流出づ。天道町に至り、すへは飯塚川に入。

山口川 米の山より流出、阿恵村にいたりて、内野川と一になる。

飯塚川 君が畑きみ、彌山や、土師はにより流れ出る川あり。内野川、山口川右三川の末、則飯塚川なり。飯塚にて川の廣さ八間、深さ三尺。飯塚の下片島村にて、大隈川と一になる。其所にて川の廣十二間。河袋村かうぶくろにて廣十八間、深三尺。末は直方川と一になる。飯塚まで舟上る。

嘉摩郡

漆生川うるしを 熊畑山くまがより流出、直方川と一になる。

桑野川 桑野村より流出、鳴生村かもぶにて漆生川と一になる。

白井川 大力村より流出、下白井村にて桑野川と一

になる。

仁保川^{にほう} 筒野村高倉村より流出、網分村にて兩川一になり、末は直方川に入。

上座郡

千年川 肥後の小國、豊後の玖球^{くす}日田より出づ。久喜宮^{ぐみ}、志波、上寺村にては川の廣さ一町、あるひは一町餘、深さ三四尺、五六尺の間。

比良松川 隅川山よりながれ出、入地村にて古江川と一になる。末は長田村にて千年川に入。

山田川 朝倉山より流出、久重村にて千年川に入。

志波川 志波村よりながれ出、千年川に入。北川ともいふ。

林田川 池田村よりながれ出、穗坂村にて千年川に入。

福井川 小石原村寶珠山兩口より出る。福井村の下にて豊後國に流入。

下座郡

三奈木川 上座郡佐田佛谷よりながれ出、白鳥村にて千年川に入。

古江川 城村よりながれ出、長田村にて千年川に入。

千年川 此郡の南側を流る。上座郡の所に詳に記す。

夜須郡

依井川 奈良原村より流出、しきうじま四三島の下にて千年川にながれ入。

秋月川 上座郡小石原村よりながれ出。又古所山の
下野島村の上よりも出。下浦村にて千年川に入。大
塚村の邊にて川の廣さ十二間、深さ二尺三寸。牛木
村邊にて川の廣さ十五間、深さ二尺。

御笠郡

蘆城川 香園村よりながれ出、西小田村にて千年川
に流入。川の廣さ四間、深さ一尺。

針摺川 平等寺村よりながれ出、永岡村にて蘆城川
と一になる。

宰府川 染川石踏川よりながれ出、國分村にて二日

市川と一になる。下は比惠川なり。

席田郡

此郡諸村の小流は、御笠郡、那珂郡の内に出自、比惠川に入。

那珂郡

那珂川 五箇山の内大野村、早良郡板屋村、又那珂郡西畑よりながれいづる。中流にて岩戸川といふ。博多にて海に入。清水村、竹下村の邊にて廣さ八間、深さ二尺。

比惠川 御笠郡宰府、思川、染川、白川、又武藏村よりながれ出、宰府の西にて一になる。板付邊にて川の廣さ七間、深さ一尺七寸。比惠村の邊川の廣さ九間、深さ一尺五寸。石堂川にて廣さ十五間、深さ一尺五寸。

早良郡

早良川 其源西は怡土郡飯場村の奥、水無谷より出、飯場、曲淵、石竈、内野村を経て、入邊村の上にな

がれ出づ、東は早良の小笠木、椎原しんは、脇山よりながれ出で、入邊村の上にて西の川と一に合て北にながる。田村邊にて川の廣さ九間、深さ一尺五寸ばかり。小田邊村より下を室見川むろみといふ。廣さ十五間、深さ二尺。其下は猶廣し。川下潮入潟廣四町十五間。十六町川 生松原の東際に流るゝ小川なり。十六町村、山戸邊より出づ。今の俗、十郎川といふ。田島川 檜原村か、東油山村兩方より出づ。鳥飼村の下にて海に入。

志 摩 郡

櫻井川 其源草場より出づ、櫻井村を経て西海に入。七寺川 怡士郡上かみの原の上高祖山の東北より出、青木村を経て海に入。

怡 土 郡

雷川 雷山より出、前原村にて海に入。其所を和泉川といふ。廣さ四間、深さ一尺。

高祖川 河原山又井原村の野田山よりながれ出、末

にて井原川と一つになる。

井原川 井原山より出る。此川の末は志摩郡にて板持川といふ。廣七間、深一尺五寸。志摩郡太郎丸にて海に入る。

公領

神有川 長野山、小倉山、雷村のわき、筒の瀧より出る。神有村にて海に入。廣五間、深二尺。

唐津領

吉井川 福井川 共に浮岳より出る。

公領

深江川 三吉村、瀬戸村兩口より流れ出る。深江にて海に入。廣十一間、深一尺五寸。

糟屋郡

宇美川 御笠郡北谷炭焼村よりながれ出、宇美村を過、別府御手洗を経て、下にて二股瀬となる。此川筋を宇美河内といふ。箱崎村の東にて海に入。同村邊にて川廣六間、深一尺五寸。

須惠川 障子嶽佐谷より流出、多々良、大橋の西、原田の東を通りて海に入。

多々良川 金井手川とも云 糟屋川なり。穂波郡大

野山、糟屋郡山伏谷、又久原山の谷、猪野山の谷よりも流出、多々良を経、名島に至て海に入。多々良邊にて川の廣さ三十間、深さ二尺五寸。

猪野川 猪野村の奥より流出、江辻村にて金井手川と一になる。

久原川 くはら 久原山より流出、江辻にて金井手川と一になる。

青柳川 青柳の本村、並的野村より流出、今在家村にて谷山川と一になり、花鶴くはづるにて海に入。

谷山川 谷山村より流出、今在家村にて青柳川と一になる。

薙内川 薦野、米多比村ねたみより流出、花鶴村の上にて、青柳川、谷山川と一になりて、花鶴にて海に入る。

宗 像 郡

江口川 江口村の邊にて川の廣十三間、深四尺。此川の源六流あり。一流は八並村、山田村、田隈村、東郷よりながれ出、田島をすぐ。是を田島川といふ。

川の廣十間、深二尺。一流は大穗村より流出、一流は淺町村より流出、一流は名殘村より流出、一流は山田村より流出、一流は池田村より流出、此六流一に合て、江口川となる。

西郷川 さいがう 舍利倉村、本木村より流出、川は疇町あぜまちにて疇町川と一になる。津丸、久原より出る川も共に、上西郷村にて疇町川と一になり、下西郷村に至り海に入。

○瀑 布 凡二十五所

西畑 那珂郡西畑村。高二間許。下に小淵有。

不入道 同郡不入道村。高五間許。

鳴瀧 同郡鳴瀧村。

一瀨 いちのせ 同郡一瀨村、五箇山に行谷中、嶮難の所に在。

兒落 同郡東小河内村。高二間許。下に深淵あり。

西油山 早良郡西油山、觀音堂の上。小瀧也。

火亂 同郡石竈村。高六間許。國中第一好瀧也。

西村 同郡。下に小淵あり。

如意 怡土郡高磯村の枝村、如意輪觀音堂の邊に在。

井原山鱗返 同郡。是は懸泉にはあらず、急流なり。

長八間許。下に深淵あり。

だるめき 同郡井原山にあり。

兄瀧 同郡飯場の奥にあり。高十間許。

童瀧わらは 同郡。高六間許。

筒瀧 同郡雷山。岩をつたひ下る事百餘間。

横瀧 御笠郡宰府村の枝村横岳にあり。

龍王 同郡武藏村武藏寺の側にあり。

御手水 同郡山家村の枝村東小田にあり。

鼓瀧 上坐郡鼓村。

花園 同郡花園山にあり。高さ三間許。よき瀧なり。

下に小淵あり。

陰竹 同郡赤谷村にあり。高さ四五間。

岩瀧 嘉摩郡中益村にあり。小流なり。高七間許。

岩間より下る。

花廻はなまはり 穂波郡内住村の境内にあり。小瀑三あり。其

一は、どうめきといふ。

馬落^{ひまおち} 同郡八木山村。高四十間許。大石のあつまり

たる間をくゞり流る。つゞきたる瀧にあらず。

太禮 宗像郡太禮村。高二間ばかり。

脇田 鞍手郡脇田の西數町にあり。頗よし。犬啼山にゆく道にちかし。道よりは見えす。

○飯盛山四所

早良郡飯盛村。宗像郡内殿村。糟屋郡^{金井手村の上、城あゝ}

御笠郡 天判山の上。

○國境之小名

豊前境

遠賀郡中原村より、上座郡寶珠山の枝村合樂村の内にいたる。

江の口 いそばた いそどり きぶね

下の田 まつほり 石原田 三 石

たうが峯 ほりそこなひ ふしが本 いりち

くぼ尻 たい田 しよくらひ 丸 隈

本 尾 いりやう しやうれ木 しりなか

平 畑 岩がはな ちしやの木辻 さる辻

櫻がたを 吉川城 くふきがたを 平石のかた

山神かた あけはなのかた さこの川原

石 丸 屋敷中 井手本 おちやうちが谷

荒谷口 だ道が谷 柿のこ坂 柳が尾

こけらたを しぼりこし以上遠賀郡

尺の岳 以下鞍手郡 た き 本谷肩

こふしろ峠 こふしろ とうしやくかう かつら尾

鷹 落 大 塔 福 智 國見岩

なぎ野 高 取 城の平 あがま馬場

さらゝ 千石岩 平 石 山 道

ほうしが尾 耳とり 水 町 國 界

すは山 かん堀 六郎坊山 今 林

すかう かくれ田 さりが尾 鱒返りの辻

以上鞍手郡

鱒かへり 以下嘉摩郡 田代峠 彌八が谷

ほうしが辻 小峠丸山 かうく破り 一 家

古 谷 まいりう 日王山 鳥 尾

鳥尾峠 椿が谷 高 場 金 石

關の山 中 峠 本 峠 水が坪峠

おんじやく山 地藏野 地藏尾筋 はいはらの上

城 山 ちうくわん寺岳 花房尾峠 花 房

千原峠 尼ヶ谷頭 權現谷頭 障子岳

こけら峠 猿わたり かうやくち 白 岩

ひじり谷 なめり 茶白山 坂 谷

大王山の根 梨の木原 山伏よこひ や を

白 岩 平かき 高 丸 大たを

なぎの てきり なんこじろう ほうさう柳

釜ぶた 長は山 たて石 黒かい

たて岩 黒 越 かんざいみの尾くま山

峯 尾 ふさがたを 小椎木 かうら牟田

くらかけ 池のたを つらなる峠 ふか堀

黒つか峠 黒 塚 い ぼ 岩以上嘉摩郡

こやが谷 以下上座郡 高 場 金剛童子

古 宿 二また峠 佛の塔 杉の切株峠かよ

宿 山 陣 屋 こやすやぶ しょうかの尾

貝つり 笈つり 糸が峯 ためのもと

あかにた 花 棚 源 八 大日嶽

釋迦嶽 水なし 水なし峠 小杉本

小杉峠 小杉のさこ 三國境 筑前、豊前、豊後のさかひなり。

以上豊前境

豊後境

上座郡寶珠山の枝村合樂の内より、同郡穗坂村の内にとる。

かくめ 足振峠 やしい浦 何右衛門鹿垣 しがき

正覺坊鹿垣 山の神 合樂谷川 がうらだ山

栗木野 こんごうの浦山 めくらのたを松 尾

長さこの頭 瀬戸の上 黒 岩 原のさこ

八所山 水上山 かくれ山 村すゝき

梨木さこ 狸さこ 米 代 川はた

下かちや堺 みゝとり 一 尾 尾のはな

ひのもと原 うそ原 なつき口 大山峠

ふとご かんせう岩峠 針目古城山 三石峠

尻なし口 ほつてん 阿蘇の下 狸 平

西のさこ 堺谷口 三國境 筑前、筑後、豊後のさかひなり。

以上豊後境

筑後境

上座郡穂坂村の内より、御笠郡原田の
枝村前小田村の内に至る。

高 岩 楠 やなつめ 坂 下

鵜木淵 梁瀬跡 た き みね田

八反田 をかみ 上つる たうのまへ

横町下 下河原 小池の淵 大窪尻

原 釣 高瀬山 網渡勝示場ちどのほうじは 宮 下

からかさ岩 小 岩 中島河原 志波の瀬

三また窪 上中島 宮 向 牛天神

うけ場 中 島 中河原 中古毛

渡 場 渡 守 江 頭 松 葉

落 口 宮 向 なかれ 稻 守

以上上座郡

かいて河原 以下下座郡 一木松向 日出河原

河 原 長田河原 久 保 高倉前

高倉河原 河原畑 そうけ田 ほつけう

びなじり 今川畑 南 口 中ふけ

すけ 本以上下座郡

五反田 以下夜須郡

かはらけ田 天神畑

ぬる水 立野

牟田 藤藏堀

太刀洗 八反田

つちとり 丸山

とりこえ 臥ヶ浦

向原 深井手の上

いりう 乙井手

下の後 長牟田

筑前崎 夜須郡御笠郡さかい

堺木 以下御笠郡

大手木 徳川中

界田二本松根界田

井尻 おとろく

池田 そら前

岩永坂 長浦

鏡野 添

鎧田 大浦

口脇 とくたう

三國境 筑前、筑後、肥前の界なり。

以上筑後堺

肥前境 御笠郡原田の枝村前小原村の内より、
怡土郡唐津領にいたる。

三國山 かくし谷頭 大坂頭 左衛門次郎

ねきが窪 はちの尾 さぶが谷 城山たうげ

大谷峠 おもの原 青篠山 地藏原

長者原峠 向坂 猿ば山谷頭 ひろとう

峠の原 古賀原 古賀 笠木

權現山以上三笠郡

鹽買峠峯 以下那珂郡 鹽買峯 象石

象石峯尾 たうの尾 九千部山高粒 水のみ山

高尾 だうむせ かと石原 ほこ石

ねこ石峠 三領境谷 三領界峠 大谷頭

屏風石 こ峠 こか尾 七曲

あやべ道 あやべ峠 札木辻 めくら落し

中峠 地焼中やけなかの谷 地焼牟田 烏帽子岩

地焼下谷川 大坂上の塚 中の瀧 大坂谷川平

中の小川 さくらくう まい淵 井手

椎木淵 川原 花田 瀬戸口

いやなき 渡瀬 白土川 新兵衛瀧

こうご淵 小石の本 兒落淵 鹽井場

渡瀬近道 中瀬 ふけばた ほうら

長尻 井手 龍王 柳田

くまかし淵　せば戸　すか牟田　古　川

以上那珂郡

くびり　以下早良郡　立　岩　花木原

二重平　三　渡　魚釣谷　立　石

から船　しやうふ頭

くびりよりしやうふ頭にいたりて、古來當國と肥前國との境とする所なり。元祿六年より以來、背振山の嶺より北の方肥前國に入て、背振の峯筋を以兩國の境とす。其詳なる事は、早良郡背振の條下に是をしるす。今境とする地の小名左の如し。

くびり　粟あはの　穂ほ　いもし釜　粟あはの　穂ほ

高野頭　鋒　所　役行者　魚釣谷頭

車　越　唐船辻　しやうふ頭　天神かま頭

へば原頭　ひたを頭　酒　盛　かうら谷頭

釜ぶた峠　東鬼が鼻　小獵峠　水門谷頭

からすみ釜　小爪峠脇尾　大　丸　瀧　谷

野いそ谷頭　猿落谷頭　かうしか岳　あこ坂谷頭

あこ坂峠

西鬼が鼻以上早良郡

杖立峠

以下怡土郡

なか谷

ひらくち谷

毛とり

屋形谷

柏はた

東水汲谷

赤土原

宿^{しゆく}平^{たひら}

丸尾

峠

木屋谷

大平

こしき岳

かと石原

うな切

だるめき

山神

西谷

扇の平

ゆすわり

大谷

大谷辻

ゑげ

大峠

大峠、雷山村の上にありて、福岡領に属す。是より

西は公領に属し、其西唐津領に至て、皆肥前國とさ

かふ。其地の小名追てしるすべし。

筑前續風土記卷之二終